

超常現象を信じることについての基礎的研究

吉 川 茂

I 問題

これまでに知られている通常の因果律を超えて働く力ないし現象を超常現象 (paranormal phenomena) といい、そうした現象を科学的に研究する学問は超心理学 (parapsychology) と呼ばれている。透視、テレパシー、予知などの超感覚的知覚 (extrasensory perception; ESP) や、物理的力によるのではなく心の力によって物体や物事の経過を変化させる念力 (psychokinesis; PK) などがその主なテーマとされてきた。しかし、1880年代に始まったとされる超心理学の歴史は、一般の科学に受入れられているとは言えそうにない。笠原 (1994) は超心理学に対する科学者からの多くの批判を集積し分析している。またそれが一般の人々の前に出現するときには、現代の科学観から隔たった、むしろ興味の対象としてマスコミによって紹介されることがほとんどである。実際、書店とくにコンビニエンス・ストアなどの書棚には超常現象を扱った文庫本や月刊誌が多数並べられており、超常現象への興味、関心が広く浸透していることがうかがわれる。さらに秘教的な知識や神秘的な力と深く関わりをもつような複数の新宗教が信者数の増大に伴い勢いを増しており、中にはその反社会的思想や行動が顕在化し問題となったものもある。

現代の日本では、人々は程度の差こそあれ、科学的な知識・技術の恩恵に浴し、学校教育では客観的、論理的な思考の習得を一つの目標として教育をうけている。にもかかわらず、上述のような超常現象やオカルトへの関心はごく限

られた一部の特殊な人だけのものではなく、なっているように思われる。それでは現代の人々は超常現象をどの程度信じているのか、その内容はどのようなものか。ふだんの合理性を重んじる生活のなかでは超常現象を信じる傾向は潜在化せざるを得ず、表面の言動には表れにくい。そこで質問紙による調査を通じて、科学性・客観性・論理性と相反するであろう超常現象を信じる傾向がどれくらいあるか確認することがこの研究の目的である。超常現象についての人間の心理に関心があるのであって、超常現象そのものの解明はまったくの目的外の事柄である。

基礎的な研究として、質問紙を集計して超常現象を信じる内容と程度についてのデータを示すことと、それに基づいて今後の研究の方向性、可能性を探ることを中心とした。

II 方法

質問項目の選定にあたっては、学習研究社の事典シリーズ①超能力②UFO③ミステリー人物④超科学⑤心霊⑥魔術⑦超文明⑧未知動物⑨奇現象を参考にして、一般の人々にだいたい知られていると考えられる内容のものを選んだ。実際の項目はTable 1に示す34項目である。厳密には全項目が超常現象のカテゴリーに含まれるわけではない。ある現象や物体、生物について、その真偽や有無が不確実なものも含めてある。さらに世間一般でよく言われるような精神作用に関する内容をも含めることにより、質問紙全体が極端に否定的あるいは拒絶的に受け取られることがより少なくなるように配慮した。

回答は3件法として、Y-肯定、?-疑問、N-否定のうちから一つを選択させた。

対象は、松原市のH大学の1年生(m:89名, f:12名)と大阪市内のT専門学校の2年生(f:15名)とし、それぞれ集団で実施した。

Ⅲ 結果と考察

超常現象を信じる程度と内容について

質問紙の34項目について、まず3件(Y, ?, N)それぞれへの回答人数とそのパーセントを求めた。Table 1には男子、女子、全体に分けてそれが示されている。

Table 1 超常現象に対する肯定傾向スコアの平均と各選択肢への回答者数およびそのパーセント

	肯定傾向スコア	Y (%)	? (%)	N (%)
1 世の中には科学や常識だけでは説明できないこともあるものだ。	男子 1.87	81(91.0)	4(4.5)	4(4.5)
	女子 1.75	22(78.5)	5(17.9)	1(3.6)
	全体 1.84	103(88.0)	9(7.7)	5(4.3)
2 深海や密林の奥深くには未知の生物がきっと生息している。	1.76	75(84.2)	7(7.9)	7(7.9)
	1.71	21(75.0)	6(21.4)	1(3.6)
	1.75	96(82.1)	13(11.1)	8(6.8)
3 人間は死の脅威に直面したときには、通常の何倍もの力を発揮することがある。	1.78	75(84.3)	8(9.0)	6(6.7)
	1.64	19(67.8)	8(28.6)	1(3.6)
	1.74	94(80.3)	16(13.7)	7(6.0)
4 現代の物質・合理性を中心とした価値観以外にも、精神・非合理性に基づいた価値観を信じる人がいてもよい。	1.66	68(76.4)	12(13.5)	9(10.1)
	1.66	20(71.4)	7(25.0)	1(3.6)
	1.67	88(75.3)	19(16.2)	10(8.5)
5 宇宙の法則はたとえ目に見えなくとも、つねに万物に働いている。	1.67	66(74.2)	17(19.1)	6(6.7)
	1.61	19(67.9)	7(25.0)	2(7.1)
	1.66	85(72.7)	24(20.5)	8(6.8)
6 世の中には単なる偶然では片づけられない一致する出来事がよく起きている。	1.61	67(75.3)	9(10.1)	13(14.6)
	1.79	22(78.6)	6(21.4)	0(0.0)
	1.65	89(76.1)	15(12.8)	13(11.1)
6 不治の病や末期状態であると宣告されても、奇跡的に助かることがある。	1.65	69(77.5)	9(10.1)	11(12.4)
	1.64	21(75.0)	4(14.3)	3(10.7)
	1.65	90(76.9)	13(11.1)	14(12.0)
8 競り合った試合で勝つか負けるかは最後は精神力にかかっている。	1.60	69(77.5)	4(4.5)	16(18.0)
	1.61	21(75.0)	3(10.7)	4(14.3)
	1.60	90(76.9)	7(6.0)	20(17.1)
9 人には感知できない異次元空間は実在する。	1.54	60(67.4)	17(19.1)	12(13.5)
	1.36	17(60.7)	4(14.3)	7(25.0)
	1.50	77(65.9)	21(17.9)	19(16.2)
10 心霊現象は今のところはまだ科学的に解明できていないが実際にある現象である。	1.22	46(51.7)	17(19.1)	26(29.2)
	1.43	16(57.1)	8(28.6)	4(14.3)
	1.27	62(53.0)	25(21.4)	30(25.6)

11 超能力といわれるものの大半はトリックだが、なかには本物の超能力もある。	1.18	43(48.4)	19(21.3)	27(30.3)
	1.43	17(60.7)	6(21.4)	5(17.9)
	1.24	60(51.2)	25(21.4)	32(27.4)
12 空飛ぶ円盤は多数の目撃者や映像が示すように実在している。	1.20	44(49.5)	9(21.3)	26(29.2)
	1.14	12(42.8)	8(28.6)	8(28.6)
	1.19	56(47.8)	27(23.1)	34(29.1)
13 熱烈な愛の想いは遠く離れていようと相手にも伝わる。	0.99	36(40.4)	16(18.0)	37(41.6)
	1.25	12(42.9)	9(32.1)	7(25.0)
	1.05	48(41.0)	25(21.4)	44(37.6)
14 私の予想や予感によく当たるほうだ。	1.06	37(41.5)	20(22.5)	32(36.0)
	0.82	10(35.7)	3(10.7)	15(53.6)
	1.00	47(40.2)	23(19.6)	47(40.2)
15 宗教的な体験や現象は、物理学や医学、心理学で説明しようとしても無理である。	0.89	27(30.3)	25(28.1)	37(41.6)
	1.14	12(42.8)	8(28.6)	8(28.6)
	0.95	39(33.3)	33(28.2)	45(38.5)
16 予言者によって、未来の重大な出来事が言い当てられたことが何度かある。	0.82	30(33.7)	13(14.6)	46(51.7)
	1.25	12(42.8)	11(39.3)	5(17.9)
	0.92	42(35.9)	24(20.5)	51(43.6)
17 世界の何十億という人のなかには、透視術を使える人間が1人や2人ぐらいいても不思議なことではない。	0.82	34(38.2)	5(5.6)	50(56.2)
	1.14	14(50.0)	6(21.4)	8(28.6)
	0.91	48(41.0)	11(9.4)	58(49.6)
18 一般の科学や道徳に束縛されないことが、宗教のもつ長所・魅力の一つである。	0.87	26(29.2)	25(28.1)	38(42.7)
	0.93	7(25.0)	12(42.9)	9(32.1)
	0.88	33(28.2)	37(31.6)	47(40.2)
19 人は死んでからも、その魂だけは質量のないエネルギーとして残される。	0.73	19(21.3)	27(30.3)	43(48.4)
	1.25	10(35.6)	15(53.7)	3(10.7)
	0.85	29(24.8)	42(35.9)	46(39.3)
20 ある家庭にはばかり不幸が重なるときには、先祖の霊が関係していないか調べてもらったほうがよい。	0.70	24(27.0)	14(15.7)	51(57.3)
	1.25	13(46.5)	9(32.1)	6(21.4)
	0.83	37(31.6)	23(19.7)	57(48.7)
21 現実の心霊写真によって霊の実在は証明されている。	0.73	23(25.8)	19(21.3)	47(52.8)
	1.11	12(42.9)	7(25.0)	9(32.1)
	0.82	35(29.9)	26(22.2)	56(47.9)
22 私には他人にない変わった潜在能力があるように思う。	0.85	32(36.0)	10(11.2)	47(52.8)
	0.43	4(14.3)	5(17.9)	19(67.8)
	0.75	36(30.8)	15(12.8)	66(56.4)
23 睡眠中の夢にはその人の将来の運命が暗示されていることが多い。	0.63	21(23.6)	14(15.7)	54(60.7)
	1.07	9(32.1)	12(42.9)	7(25.0)
	0.74	30(25.6)	26(22.2)	61(52.2)
24 血液型による性格判断は、一部誤解されている面もあるが、本質的には十分信頼のおけるものである。	0.63	22(24.7)	12(13.5)	55(61.8)
	0.93	9(32.1)	8(28.6)	11(39.3)
	0.70	31(26.5)	20(17.1)	66(56.4)

25	私は占いによって自分の運勢や行動指針を得ることがある。	0.64	25(28.1)	7(7.9)	57(64.0)
		0.86	10(35.7)	4(14.3)	14(50.0)
		0.69	35(29.9)	11(9.4)	71(60.7)
26	タイム・マシンはけっして空想の産物ではなく、遠くない将来にはきっと完成される。	0.64	21(23.6)	15(16.9)	53(59.5)
		0.82	9(32.1)	5(17.9)	14(50.0)
		0.68	30(25.6)	20(17.1)	67(57.3)
27	「スプーン曲げ」は人間の本来もっている潜在能力が実際に表れたものである。	0.49	14(15.7)	16(18.0)	59(66.3)
		0.86	6(21.4)	12(42.9)	10(35.7)
		0.58	20(17.1)	28(23.9)	69(59.0)
27	原始生活を続けている民族のなかには、身体内部の病気をその皮膚の上から手を触れるだけで治せる者もいる。	0.53	15(16.9)	17(19.1)	57(64.0)
		0.75	6(21.4)	9(32.1)	13(46.5)
		0.58	21(17.9)	26(22.2)	70(59.9)
29	サイコロのある目が出るように精神集中して投げるとその目が出やすくなる。	0.52	21(23.6)	4(4.5)	64(71.9)
		0.71	4(14.2)	12(42.9)	12(42.9)
		0.56	25(21.4)	16(13.7)	76(64.9)
30	私は自分でもよくわからない神秘的な体験をしたことがある。	0.48	19(21.3)	5(5.6)	65(73.1)
		0.39	4(14.3)	3(10.7)	21(75.0)
		0.46	23(19.7)	8(6.8)	86(73.5)
31	ストレスの多い現代人にとって信仰心をもつことは大切なことだ。	0.35	5(5.6)	21(23.6)	63(70.8)
		0.79	5(17.9)	12(42.8)	11(39.3)
		0.45	10(8.5)	33(28.2)	74(63.3)
32	まだ確認されてないが、ネス湖にはネッシーが潜んでいるはずだ。	0.28	9(10.1)	7(7.9)	73(82.0)
		0.71	6(21.4)	8(28.6)	14(50.0)
		0.38	15(12.8)	15(12.8)	87(74.4)
32	人々の真剣な祈りは天候などの自然現象に対しても影響を与えることができる。	0.24	8(9.0)	5(5.6)	76(85.4)
		0.86	8(28.6)	8(28.6)	12(42.8)
		0.38	16(13.7)	13(11.1)	88(75.2)
34	特殊な才能・体質・精神力をもつ人物のなかには、厳格な訓練や修業を実践した後、空中浮遊を行えるようになる者もまれに出現することがある。	0.25	9(10.1)	4(4.5)	76(85.4)
		0.61	5(17.9)	7(25.0)	16(57.1)
		0.33	14(12.0)	11(9.4)	92(78.6)

男女を合計した全体について「Y」への回答が80%を超える項目が3項目あった。また20%に満たない項目は7項目あったが、これら項目を20%－80%の通過率基準を設けて削除するよりも、信じる程度の両端を確認する意味で役立つべきであると考えたほうがよいように思われる。「N」への回答については80%を超えるものはなく、反面20%未満の項目が多く出現し9項目となった。

各項目内容がどれくらい信じられているかと

いう順序を相対的に決定するために、回答につきのような重みづけをした。Yへの回答に2点、?への回答に1点、Nへの回答には0点をそれぞれ与え、各項目ごとにその平均値を算出した。

このスコアは、項目内容を否定するのではなく、どちらかといえば肯定する度合いを表すと考えられることから、「肯定傾向スコア」とした。項目内容が完全に信じられる(肯定される)ときには肯定傾向スコアは2点となり、完全に

否定されるときには0点となる。Table 1の項目の配列順序は、この肯定傾向スコアの高いものから順に並べられていて、34項目中もっともよく信じられた項目の得点1.84から34番目の得点0.33まで幅広い分布を示した。

この研究における主目的は客観的データを提示することであるが、肯定傾向スコアに基づいてすこしばかり項目内容について検討を加えたい。

スコア順位の1位から8位までの項目は、男女ともにほぼ70%以上の高い肯定率となっているが、これらは特定の超常現象に言及しているというよりも、世間一般で通常よく受け入れられているような内容であったためではないかと考えられる。しかし一方では、われわれの住む世界が論理や科学によってすべてが構成され説明されるのではなく、精神的な力が物質的な現世界に深く関与しているという感覚が支配的となっていると解釈される。

スコア順位の9位から12位になると、異次元空間、心霊現象、超能力、空飛ぶ円盤など確証が得られていない内容であるにもかかわらず、それらを否定する者はどの項目も30%に達していない。超常現象を信じる基本的な心性は十分に存在するものと考えられる。

13位の、愛の想いは離れた相手にも伝わるといふ内容は1～8位と同様の性質をもつと分類してもよく、通俗的に受け入れられやすいのかもしれない。

スコア順位14位と16位は、予感、予言に関するもので、予知能力の存在を肯定する基盤となりうる。

15位の内容は1位の内容に近似するが、科学的解明が不可能な対象を宗教的現象のみに限定したため、肯定傾向が低くなったものと思われる。

スコア順位の17位をみると、透視術を否定する者とそうでない者との比率が均衡している。22位の「変わった潜在能力が自分にもある」のだから、世界の中には透視術という能力をもつ人間がいたとしても不思議ではないということ

になるのであろう。このように、世界各地の人間のなかには突然変異的に特殊な能力をもった人間がいるはずであるという感覚が、27位の、手を触れるだけでの治療や、34位の、空中浮遊も可能という考えに発展していくのではないかと推測される。

18位と31位とは宗教に関しているが、肯定傾向はそれほど高いものではなく、超常現象を信じる心が宗教を基盤としている、あるいは宗教と密接に関係しているとはこの結果からはいえない。両者の関連性は今後の興味深い課題の一つである。

スコア順位の19位、20位、21位はいずれも霊に関係した記述である。霊の实在やその影響力を否定する者は50%未満であり、現実の世界で生活していても霊は心理的には近くに存在しているとも解釈可能な結果である。

23位、24位、25位は占いに類するものとして共通点をもつと思われるが、これら結果をみる限りでは占いに対する肯定傾向はあまり高くないようである。

26位はタイム・マシンという科学的空想物を扱っており、否定的傾向が優勢ではあるが、そうした明確な判断を下すだけの論拠を有しているかどうかは疑問である。

27位のスプーン曲げ以降の項目については、否定される割合の高い項目が続くが、最下位の空中浮遊の可能性であっても100%否定されるのではなく、80%弱の否定率でしかない。肯定傾向が低いからという理由でこれら項目を軽視するのではなく、逆にこれら肯定しがたいであろう超常現象を肯定する者の心理を探究することこそ意義のあることと思われる。

超常現象の信じやすさにおける性差について

Table 2には、男女個人ごとの3件への回答状況と肯定傾向スコアの平均と標準偏差が示され、あわせてそれぞれのレンジも求められている。肯定傾向スコアの平均値の差の検定結果は、 $t=2.675$, $n=115$, $p<.01$ となり、女子のほうが有意に高いスコアをもつことが認められた。

Table 2 個人ごとの回答状況

		Y	?	N	肯定傾向 スコア
男子 (n=89)	M	13.92	4.97	15.12	32.83
	SD	5.091	5.107	3.649	9.397
	Range	1-26	0-18	3-28	13-57
女子 (n=28)	M	14.97	9.11	10.11	38.64
	SD	6.651	5.894	5.073	10.213
	Range	3-27	0-19	2-19	22-55
全体 (n=117)	M	14.13	5.96	13.92	34.22
	SD	5.517	5.592	5.917	9.913

各項目別にみた場合はTable 3のような結果となった。 χ^2 検定の結果、34項目中男女間で有意差のみられなかったのは10項目だけで、10%水準の有意傾向であったものが4項目、5%水準を上回る有意差の得られた項目が12項目であった。肯定傾向スコアの順位と性差の出現状況を見ると、比較的上位の項目では男女ともに肯定傾向が高く性差はみられない。14位以下の項目になると、0.1%水準の有意差が5項目で認められるなど性差が顕著になる。

しかしながら、自分自身が超能力といえないまでもなんらかの特別な能力や体験を有しているとする割合は、男子のほうが女子よりも多くなっており、他の多くの項目とは逆転した現象が表れている。たとえば、14位「私の予想・予感」、22位「私の潜在能力」、30位「私の神秘体験」などは肯定傾向の比率は男子のほうが女子より高くなっているのである。全体としては超常現象やそれに類する事柄の肯定度合いは女子のほうが大きいと結論できるが、超能力所有や体験傾向における男女間の質的な差異の存在が示唆される結果とみられる。

今後の研究の方向性について

心理学一般においては、とくにその教科書レベルにおいて超常現象がまともに取り上げられたとすれば、きわめて異例のことである。おそらく現在の心理学においては、心とはけっしてある種の物質ではなく、また身体と分離しては

存在しえないとの立場を基本としていていると考えられる。そして精神が自己の身体に影響を及ぼすことはあるとしても、他の物体や現象に影響を及ぼし得るとの前提には立っていないであろう。つまり、心理学は超能力や心霊をすくなくとも積極的に肯定する側にはないことは確かである。

しかしこの結果から明らかになったように、超常現象を信じる傾向はけっして小さいものではなかった。心の機能的側面や状態、およびその発達過程、また生理学的知識などは多く蓄積されてきた。しかし各個人が感じている自分そのものという意識がいったい何なのかについてはほとんど明らかにできていない。科学が発達し、教育的機会も十分な日本の若者たちは、「心」をどのように認知し、さらに自己の生存する物質的、精神的世界をいかに認知しているのであるか。

超常現象を信じる傾向が小さくないという結果から導かれる一つの研究方向は、心そのものの認知のされ方を調べることに、それに関わる心理学的要因—情緒的、知的な広範囲に及ぶ特性や能力—を探究することではないかと考えられる。また発達の、世代別な側面からの調査も有効かと思われる。さらに筆者の関心からいえば、超常現象をはじめ不確定、曖昧な事象に対する心理に焦点をあてれば、Ambiguity Tolerance-Intoleranceとの関連にも興味もたれる。

金児(1995)は若者と宗教との関わりを詳細に調べており、「結局のところ、若者の宗教心は、すべて靈魂や靈界への関心が根底にあるといえる」とし、現世利益信仰への志向性という観点からの説明を展開している。こうしたことから考えると超常現象を信じるのが個人にどのような精神的利得をもたらすか、または自我防衛機制という視点からのアプローチも妥当ではないかと思われる。

<要約>

さまざまな超常現象や未確認事象を科学・教

Table 3 超常現象の肯定傾向についての性差

	肯定傾向			否定		肯定傾向			否定		
1 「常識説明不可」	m	85	4	df=1		18 「宗教の魅力」	m	51	38	df=1	
	f	27	1	$\chi^2=0.106$	ns.		f	19	9	$\chi^2=0.987$	ns.
2 「未知の生物」	m	82	7	df=1		19 「魂のエネルギー」	m	46	43	df=1	
	f	27	1	$\chi^2=0.127$	ns.		f	25	3	$\chi^2=11.094^{***}$	
3 「死の脅威直面」	m	83	6	df=1		20 「先祖の霊」	m	38	51	df=1	
	f	27	1	$\chi^2=0.026$	ns.		f	22	6	$\chi^2=10.972^{***}$	
4 「非合理性価値観」	m	80	9	df=1		21 「霊の実在」	m	42	47	df=1	
	f	27	1	$\chi^2=0.479$	ns.		f	19	9	$\chi^2=3.645^{\dagger}$	
5 「宇宙の法則」	m	83	6	df=1		22 「私の潜在能力」	m	42	47	df=1	
	f	26	2	$\chi^2=0.127$	ns.		f	9	19	$\chi^2=1.961$	ns.
6 「偶然の一致」	m	76	13	df=1		23 「夢の暗示」	m	35	54	df=1	
	f	28	0	$\chi^2=3.241^{\dagger}$			f	21	7	$\chi^2=10.862^{***}$	
7 「奇跡的回復」	m	78	11	df=1		24 「血液型判断」	m	34	55	df=1	
	f	25	3	$\chi^2=0.010$	ns.		f	17	11	$\chi^2=4.390^*$	
8 「勝負の精神力」	m	73	16	df=1		25 「占いで行動指針」	m	32	57	df=1	
	f	24	4	$\chi^2=0.027$	ns.		f	14	14	$\chi^2=1.761$	ns.
9 「異次元空間」	m	77	12	df=1		26 「タイム・マシン」	m	36	53	df=1	
	f	21	7	$\chi^2=2.077$	ns.		f	14	14	$\chi^2=0.794$	ns.
10 「心霊現象」	m	63	26	df=1		27 「スプーン曲げ」	m	30	59	df=1	
	f	24	4	$\chi^2=1.768$	ns.		f	18	10	$\chi^2=8.231^{**}$	
11 「超能力」	m	62	27	df=1		28 「手を触れて治療」	m	32	57	df=1	
	f	23	5	$\chi^2=1.670$	ns.		f	15	13	$\chi^2=2.750^{\dagger}$	
12 「空飛ぶ円盤」	m	63	26	df=1		29 「サイコロ精神集中」	m	25	64	df=1	
	f	20	8	$\chi^2=0.030$	ns.		f	16	12	$\chi^2=7.898^{**}$	
13 「熱烈な想い」	m	52	37	df=1		30 「私の神秘的体験」	m	24	65	df=1	
	f	21	7	$\chi^2=2.493$	ns.		f	7	21	$\chi^2=0.042$	ns.
14 「私の予想・予感」	m	57	32	df=1		31 「現代人の信仰心」	m	26	63	df=1	
	f	13	15	$\chi^2=2.750^{\dagger}$			f	17	11	$\chi^2=9.092^{**}$	
15 「宗教的体験の解明」	m	52	37	df=1		32 「ネッシー」	m	16	73	df=1	
	f	20	8	$\chi^2=1.521$	ns.		f	14	14	$\chi^2=11.455^{***}$	
16 「未来の予言」	m	43	46	df=1		33 「自然現象への折り」	m	13	76	df=1	
	f	23	5	$\chi^2=8.584^{**}$			f	16	12	$\chi^2=20.671^{***}$	
17 「透視術」	m	39	50	df=1		34 「空中浮遊」	m	13	76	df=1	
	f	20	8	$\chi^2=6.494^*$			f	12	16	$\chi^2=10.117^{**}$	

$^{\dagger}p<.10$, $^*p<.05$ $^{**}p<.01$ $^{***}p<.001$

育の普及した現代の人々がどの程度信じるのかという問題が検討された。大学生，専門学校生117名を対象として，超常現象を肯定するか否定するかを34項目からなる質問紙に3件法で回答を求めることにより調査した。結果は，精神的な力が物質的な世界に影響をもつと信じる傾向が広範囲に認められ科学がそれらに否定的であるのに対し，人間心理はそれらと親和的な面が少なくないことがわかった。また，女子のほうが男子よりも超常現象を信じやすいという傾向も認められた。われわれの「心」というものがどのように認知されているかが基本的な問

題として今後の探究課題とされた。

参考文献

- 磯崎三喜年他編『マインド・ファイル』ナカニシヤ出版，1996年。
笠原敏雄『超心理学研究』おうふう，1994年。
大森 崇編『ムー事典シリーズ①～⑨』学習研究社，1993年。
高木 修編『社会心理学への招待—若者の人間行動学』有斐閣，1995年。
Yvonne Castellan, 田中義廣訳『超心理学』白水社，1996年。

(1996年10月14日受理)